

第1分科会

問題提起園 やはた幼稚園

愛着形成と心の育ちを考える

問題提起者 西村 遥

1 研究課題

愛されて育つ子ども

2 研究・研修の視点

人と関わる力の基礎は、自分が保護者や周囲の人々に温かく見守られているという安心感から生まれる、人に対する信頼感をもつこと、さらに、その信頼感に支えられて自分自身の生活を確立していくことによって培われる。

つまり、愛された経験を重ねた子どもは、自分が愛されたのと同じように人を愛せるようになり、人を信頼できるようになる。親密な関係の大人との信頼関係を構築し、それを足場として徐々に自分の世界を広げていけるようになっていく。それは自分の心の中にしっかりと大切な他者とのつながりがあり、愛されている思いがあるからこそである。このような基盤が人間関係を形成していく力の基礎となり、その後の人生における心の育ちや自己肯定感、社会性の発達に大きく影響すると言われている。

園生活においては、何よりも保育者等が子どもとの信頼関係を築くことが必要である。子どもがそれを基礎として、安心・安全・安定の中で様々なことを自分の力でやり、充実感や満足感を味わうように援助して自立への過程を進めるようにすることが大切である。また、保育者が保護者との連携や交流を通して、子どもへの愛情や成長を喜ぶ気持ちを共有し合うことによって、保護者は子育てへの意欲を高め、より一層自信をもつことができるようになる。このような保護者と保育者の愛情に包まれた環境の中で育てることは、子どもの育ちを支えることになる。と考える。

そこで、本研究においては母子間の愛着形成に引き続き保育者との愛着形成に焦点を当てて、子どもの心の育ちはいかにあるべきかを保育者の関わりを通して深めていきたい。

3 主な研究・研修の内容と計画

子どもを取り巻く環境が変容する中で、家庭との連携や支援のあり方、保育者の関わりの実践から、愛着形成と心の育ちを研究する。

- ・令和2年度・・・特定の安心できる存在から信頼感を得る乳児期と社会性を獲得していく幼児期の子どもの事例を通して、親子関係と保育者の関わりを考える手がかりとする。
- ・令和3年度・・・年少少（2歳児・満3歳児）の保育から、クラス集団の保育の経過を通して、保育者との愛着形成が子どもの心の育ちにどのような影響を及ぼすか保育実践を通して検証する。

4 研究の概要

(1) 研究・研修テーマのとらえ方

- ・多くの園児や保育者と触れ合い、関わりが深まる中で、共感や思いやりなどをもつようになり、よいことや悪いことに気付き、考えながら行動したり、きまりの大切さに気付き、守ろうとしたりするなど、生活のために必要な習慣や態度を身に付けていくことが人と関わ

る力を育てていくことになる。そのための保育者の関わり方はどうあるべきか。

- ・ 子育てに不安や負担感を感じている保護者が、子どもの成長する姿に心を動かし、成長を喜ぶ中で、子育てを楽しんでいると感じることができるような働きかけや環境づくりを研究する。


(2) 研究の内容



- ・ 子どもの自己肯定感を育てるための保育者の関わりについて考察する。
- ・ 保護者に子どもの姿をしっかりと受け止めてもらい、子どもの成長に気づき、喜びがもてるようになるための保護者への関わりや支援について実践する。

(3) 実践例

事例①

- ・ 友達間のトラブルが多く、何事にも1番にこだわる姿が見られる。
- ・ 保護者に様々な提案をし、子どもの行動を温かく受け止めてほしい気持ちを伝えていく中で、保護者に気持ちの変化が見られたことにより、子ども自身も周囲との関係を築けるようになった。

時期	幼児の姿	保育者の関わり	保護者の姿	変化（心の育ち）
年少	<ul style="list-style-type: none"> ・ 石を投げる、噛むなど自分の気持ちをコントロールできずに、友達に手をだしてしまうことがある。また、勝手な思い込みで作り話をしてしまう。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>思いを受け止め、気持ちを代弁しながら話を聞く。</p> </div> 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共働きで忙しく、子どもとの関わりがあまりもてていない。 	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 活動等に取り組む姿を褒められることで自信に繋がりが、気持ちが落ち着くこともある。 ・ 信頼関係が築けてくると、人とのスキンシップを楽しむようになる。 <p>《保護者の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 保育者に信頼を寄せるようになってきた。 ・ 子どもの姿を少しずつ受け入れられるようになり向き合おうとする。 ・ 保護者も人間関係を築きにくい面があり、子どもとの関係も構築しづらいのではないかと思われた。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>大人の気をひこうとしているのだろうか？</p> </div> <div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>職員会議で子どもの様子や親子の姿を相談し、子どもとの関わり方や保護者への伝え方のアドバイスをもらった。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 保護者に現状をしっかりと伝え、子どもの行動の要因を共に考え、一緒に見守っていきましょうと伝える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 手が出てしまった時、母親がきつく叱って言い聞かせている。 ・ 保育者の話を理解してくれてはいるが、なかなか実践できない様子がうかがえた。 	
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 体力がついてきて、より力が強くなり行動が激しくなる。 			<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 0 auto;"> <p>つい手が出てしまうのだろうか？友達の痛みをどう伝えたらわかってもらえるのだろうか？</p> </div>

時期	幼児の姿	保育者の関わり	保護者の姿	変化（心の育ち）
年中	<ul style="list-style-type: none"> 自由遊びの際、ブロックの取り合いや遊具の順番が待たず、<u>1番にこだわる姿が見られ突発的に手が出てしまいトラブルにつながる。</u>相手と話し合おうとするが「やっていない」と言うことが続く。 	<p>子ども同士の関わりの様子を見守り、必要に応じて声をかける。子どもの気持ちを受け止めながら、相手の気持ちも考えられるような働きかけをする。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 園での様子を伝えた際、家庭では兄妹に手が出る、感情の起伏が激しく困っているとの話があった。母親の心に余裕がない様子もうかがえた。 	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 友達とのトラブルは続くが、その都度一緒に考え解決していくことで、子どもも少しずつ落ち着いて話し合いができるようになる。
	<ul style="list-style-type: none"> 結果にこだわる保護者の姿が予想される。取り組みの過程が大切だということに気付いてほしい。 1番じゃなくてもいいんだと伝え、子どもの気持ちを楽しませてあげたい。 	<p>保護者とじっくりと話し合った。</p>	<p>保護者の心の不安定さが子どもにも影響していそう…</p>	<p>《保護者の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 家庭の悩みを打ち明けることで、心が軽くなったのか以前より話しやすくなる。
	<p>スキンシップの取り方や簡単な触れ合い遊び例を保護者に提案する。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 保護者にありのままの子どもの姿を認めてもらい、子どもへの思いを言葉や態度で表現することや<u>子どもと触れ合う時間の大切さを伝える。</u> 母親が悩み等を話せる雰囲気をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> 親子で休日に出かけたことや、日常会話の様子などを教えてくれることが増えてきた。 	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 少しずつ落ち着いて話し合いができるようになる。トラブルはあっても、自分の思いだけでなく、相手の気持ちにも気付けるようになった。
				


時期	幼児の姿	保育者の関わり	保護者の姿	変化（心の育ち）
年長	<ul style="list-style-type: none"> AちゃんがBちゃんに荷物を持たせている姿を見て、「友達に自分の荷物を持たせるな」と腕を強く掴み、アザができてしまった。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>Bちゃんへの思いやりの気持ちや正義感を十分受け止め、よいことと悪いことに気付けるように働きかけた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 正義感からきたこと、したこと全てを否定的に叱らないよう伝えた。 	<ul style="list-style-type: none"> 相手を傷つけたことに初めは少しショックを受けた表情であったが、保育者の話を受け入れてくれた。 子どもと向き合い気持ちを十分に受け止めながら、対応することの大切さ理解してくれたのではないかと。 	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保育者や母親が子どもの気持ちを理解してくれたことで、同じことをくり返さないようになった。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>友達を傷つけてしまったが、Bちゃんを助けようとした行為に成長を感じた。</p> </div> <ul style="list-style-type: none"> 生き物や植物への興味・関心が強く、図鑑で調べたり、積極的に世話したりする姿が見られた。 	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px;"> <p>生き物について発見したことをクラスで発表する場を設け、喜びや自信がもてるよう援助した。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 親子の関係が深まるきっかけとなり、家庭でのやりとりを穏やかな表情で話してくれるようになった。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>子どもが成長して、自分の思いを保護者に伝えられるようになったからこそ、子どもの気持ちを共有する楽しさが味わえるようになったのではないかと。</p> </div> <p>《保護者の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 親子の時間を大切にするようになった。 就学を意識し、さらに真剣に向き合う様子が見られる。
	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>周りの友達に認めてもらおうことで、集団の中の自分を意識し、周りの友達のことにも認めてあげられる気持ちをもってほしい…</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> 保育者は悩みながらも本気で子どもに向き合う姿を共に喜んだ。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>保護者の子育てに対する自信につながってほしい。</p> </div>	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者の変化が見られたことにより、周囲へも優しさを見せるようになる。 周りの環境に対して友達と一緒に喜んだり、素直に応じたりすることができるようになってきた。

【考察】

- ・ 子どもの行動が愛情不足によるものか、子ども自身の特性によるものなのかを見守ってきた。あらゆる手立てを行う中で、様々なことに自信をもって行動し、少しずつ他者の気持ちに気づき向き合う姿が見られるようになってきた。
- ・ 子どもへの寄り添い方が分からない保護者に対して、保育者が寄り添いながら関わり支援することで理解してもらえるように実践した。親子が心健やかに向き合っているように子ども支援、保護者支援が必要だと考える。
- ・ 園全体で共通理解しながら子どもと関わり、保護者にありのままの子どもの様子を伝えた。行動の裏にある思いも伝え、一緒に見守っているよう寄り添うことで、保護者が子どもを受け入れるきっかけにつながった。
- ・ 入学後、親子で保育者に会いに来てくれたその表情に親子の関係がより深まっていると感じた。根気強く向き合ったことが伝わったのではないかと考えられる。

事例②

- ・ 毎日、長時間幼稚園に預けられていることで心が安定せず、泣いたりわめいたりする姿を保育者が子どもの気持ちになって受け止め、母親的な愛情を注ぐことによって、子どもに変化が見られるようになった。
- ・ 子どもの育ちに、あまり関心が見られない保護者の姿がある。そこで、保育者は、保護者に子どもと向き合う時間の大切さを根気強く伝えた。子どもには、愛情豊かに応答的に関わった。

時期	幼児の姿	保育者の関わり	保護者の姿	変化（心の育ち）
0歳児	・ 歩行開始、離乳食の進捗ともにゆっくりであった。	・ 家庭でも身の回りのことを一緒にするなど、子どもとの時間を大切にしてもらうよう、お願いした。	・ 家庭での子どもとの関わりがあまりない。また、深刻に受け止めていない、困っていることもないとの反応である。	《幼児の変化》 ・ 周りに刺激を受けてか、少しずつ意欲的に活動するようになる。
1歳児	・ おもちゃの取り合いや、些細なことで保育者を独占したいという思いで癩癩を起し泣き続ける。	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <ul style="list-style-type: none"> ・ 本児の思いを代弁し、気持ちを共有することで落ち着くようにする。 ・ 「大丈夫だよ、近くにいるよ」などの言葉かけで安心するようにした。 </div>	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 15px; padding: 10px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>なかなか保育者に心を開こうとしない姿が見てとれた。</p> </div> <div style="text-align: center; margin-top: 10px;">  </div>	

時期	幼児の姿	保育者の関わり	保護者の姿	変化（心の育ち）
2歳児	<ul style="list-style-type: none"> ・ 迎えの際、駄々をこねて泣き叫び、母親を困らせる姿があった。 ・ 偏食気味で、毎回食事の度に泣くということが続く。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもに自信をもって叱ったり、毅然とした態度をとったりすることも必要、母親だから大丈夫なのだと励ました。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>「泣いてもいいよ」、「食べたくないなら食べなくても大丈夫だよ」と安心させ、少しでも食べることができたら、共に喜んだ。</p> </div>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの様子に困惑し、対応に困る母親の姿がある。 ・ 偏食のことは気になっているようなので、家庭での食事の様子も知らせてくれる。 ・ ちょっとした変化を喜ぶようになる。 	<p>《保護者の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 子どもの育ちやちょっとした変化を喜ぶようになる。 家庭での困りごとや悩みを話してくれるようにもなった。 ・ 子どもとの時間を大切に考えてくれるようになった。
	<ul style="list-style-type: none"> ・ 言葉の獲得とともに、自分の気持ちや伝えようとするようになる。 ・ 進級を喜び、自信をもって活動するようになる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家庭での食事の様子を聞きながら、互いに成長の喜びを共有する。 ・ 園での成長の様子を保護者に話すことで、子どもをかわいと感じ、家庭でもいろいろな遊びを一緒に楽しめよう、働きかける。 	<div style="border: 1px solid black; border-radius: 50%; padding: 20px; text-align: center; margin: 10px 0;"> <p>話題にしやすい食事のことで、いろいろなことを話せるきっかけにもなったのではないか？</p> </div>	<p>《幼児の変化》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ けんかや癇癪を起こしそうになることもあるが、自分の気持ちに折り合いをつけることもできるようになった。

【考察】

- ・ 思い通りにならないと癇癪を起こし、長時間泣き続ける、何を言っても受け付けない姿は、園に預けられている時間が長く、家庭でゆったりと過ごす時間が少ないことにより、情緒が安定しないことも要因のひとつと考えられるのではないかと。長時間幼稚園に預ける理由として、保護者が子どもとの関わり方がわからないことも挙げられる。
- ・ 低年齢の頃から、家庭でなかなかできないことを保育者が共に行い、活動の楽しさを共有し、子どもに変化が見られたことで、母親が子どもをより可愛いと思えるようになり、関わる楽しさを感じられるようになったのではないかと考える。

4 まとめ

乳幼児期の心の発達には、愛着の形成が大前提としてある。

特定の人との安心できる関わりを通じて、自分のしたいことを伝え、人の話を聞く意欲が生まれ、これらがコミュニケーション能力の土台・基礎となるのが乳児期である。つまり、この時期に愛着関係を形成していくことが心の育ちの土台となるのではないか。

保育者にできることは、多様な子ども、多様な家庭が増えている中で、一人一人に向き合いながら、その子のまた保護者の一番の味方・理解者になることだろう。「いつでも見守っているよ」という安心感を与えてこそ、信頼関係を築ける。その基盤があって、他者との信頼関係を築き、子どもの社会性の獲得につながる。子どもの気持ちを受け止め、「表面上の言葉だけでなく子どもが身体全体で表現する本当の思いや願いに気付く」ことの必要性を感じる。

今回の研究を通して、乳幼児期の育ちの大切さを改めて学んだ。子どもたちには、自分は周囲から愛されている、また自分のことを無条件に好きと思ってほしい。保護者には、子育ての楽しさも大変さも周囲と分かち合いながら、子どもの成長を見守ってほしい。

そのために、私たち保育者は、子どもや保護者に丁寧に寄り添い、共に育てていく姿勢をもち、養育的な役割を担う支援・援助を社会的な役割として果たしていきたい。

5 今後の課題

- ・ 子どもの育ちや家庭、地域社会が変容していく中で、子どもへの関わり、保護者との連携の在り方が複雑化、多様化している。保育者においては、自らの専門性を発揮し、また園全体で専門性や経験を補い、一丸となって教育・保育活動を進めていくことが求められる。また、保護者や子どもの言葉を傾聴するなど、子どもの特性や変化に気づき相談援助の視点に立った支援の在り方を考え、幼稚園と保護者で解決できない場合は専門家に意見を聞くなどのことも必要ではないか。
- ・ 子どもたちが保育者との信頼関係に支えられて自信をもって活動し、主体性や人と関わる力を培うための園生活のあり方をさらに追求していきたい。
- ・ 保護者の子育て支援という認定こども園の責務を果たす中で、どうしても長時間預けられる子どもの存在がある。子どもとゆったりとした時間がなかなかとれない保護者に、愛着形成の大切さを伝えていくことの困難さと矛盾をどう解決していけばよいか。
- ・ 新型コロナウイルスが流行し、ステイホームで親子の時間が増えた。愛着形成が深まる家庭もあれば、子どもとの関わり方が分からずストレスを感じてしまう親もいる。今後、このような問題に対して、保育者がどう子育て支援をしていくべきだろうか。

